

タンボ槍のように先を丸めた棒で、中をつつきまわすわけです。そうすると中にいる魚はびっくりして飛び出して、網にひつかかるといいうわけです。これでとれたのはサイ、マルタ、鯉ですね。昔はよく川に氷が張つたですが、その氷を割って網を入れるんですよ。うまくゆくと真謝の集団が何十貫と入りました。信じられないでしょうが、本当に何十貫も一度でとれたんです。嘘じゃないですよ。

蝦だるといふのもありました。竹であんだたるでね。餌は田んぼの田にしをつぶして作つてね。これにはうなぎが入りました。

さし網もありました。これは今では禁止ですが、三枚の網で、それぞれの目の大きさが違っているんですが、これを魚のいそいな所に張つておくんです。これは魚の産卵期を獲つてやる方法でした。

「水がめ化に関して」

昔からつい最近まで、桜川は天然のままに、雨が降れば桜川が流れて霞ヶ浦に注ぎ込み、逆に渇水期になると

霞ヶ浦の水が少なくなつて、海から塩水が逆流してくる。という具合になつていたわけです。だから出島から先あたりは、海の魚と川の魚が同居していたんですよ。桜川だつて、丁度八月頃水が出た時には、鮒なんかあんまり獲れなくて、すくい網をやっていると、すいごがとれたんですよ。すいごというのは、スズキの子供ですが。それから秋になると、サヨリが釣れました。

「水がめ化」なんかしたら、海とは全く縁が切れるわけですから、白魚は駄目になつてしまう。うなぎは全然上らない。それよりも、なによりも汚染がひどくなつてしまふでしょう。水が動かなくなるんですよ。今までだつて霞ヶ浦は年に一回しか水が入れ代わらないと言われていたのに、逆水門を閉めて、どろ水にされるんじやたまりませんよ。それに、水がめ化が実施されると、水位が一メートル五十三上るそうです。そして最底水位の時には、又今より一メートル五〇程度下がるといふんですから、湖の自然というものが何にもなくなつてしまふわけですよ。霞ヶ浦が汚くなつて、駄目になつたとし